

第 1 研究の基調

1 研究の概要

本県の小・中学校における特殊学級は、量的な面(入級する児童生徒や学級数)からみると昭和54年(1979年)の養護学校の義務制施行を境にして減少傾向をたどってきた。

一方、教育の質的な面(教育内容等)からみると、精神薄弱特殊学級、難聴特殊学級、言語障害特殊学級、及び情緒障害特殊学級のいずれの学級においても、障害の状態が多様化し、学級内の個人差も大きくなってきた。そこで、個人差の大きい児童生徒をどのようにして一つの集団として取り組ませるか、あるいは、集団活動の中で指導の個別化をどのように図っていくのか、ということが大きな課題となった。即ち、障害の状態や発達段階等、個人差に応じた教育課程及び指導計画が必要とされてきたのである。

そのため、茨城県教育研修センターでは、旧茨城県立教育研修センターの研究成果を基盤として、平成4年度に「特殊学級における教育方法の研究」の主題のもとに研究を進め、研究報告書として「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」を刊行し、各学校及び各関係機関に配付し指導の参考に供してきた。この研究報告書は、本研修センターにおける特殊学級担当教員の研修講座での活用や各特殊学級担当者の日々の指導計画等に有効に活用されてきた。

しかし、この研究の過程で、年間指導計画や学習指導案を作成、実践するにあたって、児童生徒の心身の障害の状態や発達段階に応じた、教材・教具の開発や活用が不可欠であるとの認識を深めた。このため、先に述べた研究報告書「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」における学習指導案等の中に、具体的な教材・教具名や活用方法についても可能な限り掲載したが、事例数も限られ今後の研究課題となった。

一方、特殊教育諸学校においても、研修講座における研究協議や各学校の実践研究の中で、障害の状態が多様化し、個人差に応じて教材・教具を開発や活用の在り方について研究の必要性が指摘されてきた。

この点については、盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領(小学部、中学部、高等部)の総則において「児童又は生徒の心身の障害及び特性等に即した教材・教具を創意工夫し、それらを活用して指導の効果を高めるようにすること。」と述べ、教材・教具の開発と活用に関する創意工夫や研究の重要性を指摘している。

そこで、本研修センターではこの課題解明のため、平成5年度から平成6年度の2か年にわたり、研究主題を「教材・教具の開発と活用に関する研究」とし、理論的・実践的な研究を進めてきた。

2 研究主題

「教材・教具の開発と活用に関する研究」

3 研究のねらい

県内特殊学級及び特殊教育諸学校における教材・教具の開発と活用の現状について実態調査を行い、児童生徒の心身の障害の状態や発達段階に応じた、より効果的な教材・教具の開発や活用の在り方について理論的・実践的な研究を深めるとともに、優れた教材・教具を広く紹介し各学校の指導に役立てる。

4 研究期間

平成5年度から平成6年度までの2か年

5 研究の経過

(1) 研究グループの構成

精神薄弱特殊学級、難聴特殊学級、言語障害特殊学級、情緒障害特殊学級及び特殊教育諸学校の実態に応じて、実践的に研究を進める必要があり、学識経験者2名、指導主事3名ほか、下記の担当教諭に研究協力員を委嘱し研究を進めてきた。

グループ 構成メンバー	特 殊 学 級			特 殊 教 育 諸 学 校			
	精神薄弱	難聴・言語	情緒	盲	聾	精神薄弱肢体	不自由・病弱
教 諭(人)	4	2	2	2	1	5	3
学識経験者(人)	2						
指 導 主 事(人)	3						

(2) 研究の協議内容

研究の期日及び協議内容については次のとおりである。

	回	期 日	協 議 内 容
平成 五 年 度	1	平成5年 6月18日	・淑徳大学助教授 宇佐川 浩先生の講義「教材・教具の開発と活用の在り方について」により研究について指導を受ける。 ・今後の研究の進め方と調査項目・内容を検討
	2	7月27日	・土浦市保健センター指導員 高杉 紀久子先生の講義「特殊学級における実践例」をもとに、実践的研究について指導を受ける。 ・各学校へ依頼する調査実施要項を検討
	3	8月25日	・教材・教具の開発と活用の在り方について障害種別の分科会に分かれて検討 ・調査結果の集計と分析の進め方について検討
	4	12月10日	・調査結果の集計と分析 ・調査結果の分析に基づき研究報告書の項立てを検討
	5	平成6年 1月27日	・調査のまとめと次年度の研究の進め方について検討

	回	期 日	協 議 内 容
平成 六 年 度	1	平成6年 6月2日	・2年次の研究の進め方及び研究報告書の内容の検討 ・調査結果の分析と再検討
	2	7月26日	・教具の開発と活用の在り方について協議 ・協議に基づき研究報告書掲載の教材・教具の選定
	3	10月14日	・選定教材・教具の一覧表の作成 ・研究報告書の項立て及び内容の再検討
	4	平成7年 12月6日	・研究報告書のまとめ